

子どもの学ぶ意欲を伸ばす

～自ら進んで学ぶ子どもを育てるために～



小学校の学習は、将来自立して生きていくための基礎となるものです。とくに「読むこと」「話すこと」「書くこと」「計算すること」などは、社会人として自立する基礎となる欠かすことのできない「生きるための力」です。

本校は、1時間1時間の授業のねらいを明確にして学習を進め、子どもたちの学ぶ力の向上と基礎学力の育成に努めています。また、様々な機会をとらえ、『自ら学ぶことができる子どもの育成』を心がけています。さらに、学校でつけた力を確実なものにし、さらなる力として発揮できるようにするためには、家庭と連携した「家庭学習の習慣化」が不可欠です。

本校では「家庭学習 = 宿題」とは考えていません。「家庭学習 = 宿題 + 自主学習」と考えています。子どもたちが、宿題のある無しにかかわらず、自ら進んで課題を見だし学習していく姿を願っています。

そこで、家庭での学習を一緒に考え、見直していくための参考資料として、「家庭学習の手引き」を作成しました。ご家庭の事情やお子さんの実態に合わせながら、家での学習の約束を話し合う際や、支援・声かけのしかたの参考として、ぜひ活用してください。

1 家庭学習の意義

家庭学習がなぜ必要なのでしょう。家庭学習によって、次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで確かな力として定着していきます。

学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わっていきます。

そして、「わかった」、「できた」のサイクルが、子どもたちの学習意欲を高め、学習に対する前向きさにつながっていきます。

② 脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日くり返し使うことで活発にはたらくようになるのです。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。小学生のうちからどんどん脳を鍛えましょう。

③ 学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につくことをねらっています。毎日続けることで、学習に向かうことが習慣化されます。毎日少しずつの積み重ねが、確かな力、大きな力となって子どもたちに根付きます。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習することが大切です。

まずは、机に向かって教科書や本をひらくところからですね。

④ けじめ・がまん強さ・根気・集中力をつける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの遊びです。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ・根気・集中力を養うことができます。時間になったら、テレビを消す、ゲームをやめるなどけじめをつける事も大切です。はじめのうちは苦しいかもしれませんが、我慢して続けることで、自然に机に向かえるようになっていきます。子どもたちが集中して学習に向かうことのできる環境を用意していただくようお願いいたします。また、テレビやゲームの時間を決めて、学習や読書等の時間をつくり出し、しっかりと確保するように努めたいものです。そのためには、お家の方全員の協力が必要なのは言うまでもありません。

⑤ 家族のふれあい

「本を読んでいるとき、横で聞いてあげる。読み終わったときに、内容について話題にあげてみる」「勉強がわからないとき、一緒に考え合う」など、家庭学習をしている子どもに親が関わることにより、コミュニケーションがはかれます。

家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神的な安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

また、学校からのおたよりやプリントに目を通し、学校の様子やお子さんの学習の様子に関心をもつことも大切です。こうすることで、子どもとの距離が近くなり、よりよい関係づくりに役立つと思います。

2 保護者の皆様へお願い

家庭学習の効果が高まるように、子どものやる気を引き出すような関わり、働きかけをお願いします。

① チェックカード記入をお願いします

お子さんの宿題には、最後に必ず目を通していただき、やり忘れがないかの確認と取り組んだことへの誉め言葉をお願いします。そして、チェックカードに印をお願いします。

② 「決まった時間」「決まった順序」で習慣化

※習慣化＝何も考えなくても体が自然と家庭学習に向かおうと行動する

1) いつも決まった時間に学習に取り組むよう働きかけをお願いします。

長時間学習することで成果が上がるとは必ずしも言えません。「一定の時間で取り組む」と決めると、集中して勉強することができます。メリハリのある学習習慣を身に着きたいものです。「学年×10分」をおおよその目安にして集中してがんばることから始めてみましょう。

2) 学習の順序も決めさせてみてください

「まずは算数。次に国語。それから自主学習。」というように、学習する順序がいつも決まっていると習慣化されやすくなります。

お子さんに帰宅後の時間の使い方、学習順序について尋ねていただき、親子で帰宅後の時間の使い方を丁寧に確認してみてください。

③ 目的をもって学ぶ

中・高学年では、自分でめあてをもって学習に取り組むことが、意欲の向上につながっていきます。「決められているから、仕方無いからやる」から「自分からやる」へ意識を変えることが大切です。そのために、「勉強は何のためにするのか」について、家庭で話をしていただくこともよいでしょう。

④ 家庭学習に集中できる環境をつくる

1) 「ながら勉強」はやめましょう。

「テレビや音楽」が聞こえる、「おやつを食べながら」といった環境は、学習したことが定着しにくくなります。「楽しみは、勉強が終わった後にとっておく」ということで、やる気アップにつなげましょう。

2) 整頓された場所で、よい姿勢で学習する

マンガやゲームなど気を引くようなものが見えると、学習に集中できません。片づけさせましょう。自分の机ではなく居間での学習もよいのですが、学習環境が整っていることが不可欠です。

集中して勉強できる環境づくりは、子ども任せでは難しく、親が責任をもって整えることが重要です。

⑤ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

「褒めて終わる」ことが意欲につながります。 ついつい口うるさくなりがちですが、強制のしすぎや、間違いをきつく叱ることは逆効果になります。頑張っている姿、頑張ろうとする姿を見つめ、励まし、支えていくようにしましょう。

⑥ 学力アップは規則正しい生活・自立から

「早寝、早起き、朝ご飯」が大原則です。そして、適度な運動は、全身の血流を活発にし、脳の活性化につながります。また、時間割や学習用具を自分でそろえるなど、自分のことは自分で行うことも大切です。自立的な生活を送られていることが、学習意欲向上につながるからです。

3 自主学習のヒント

自主学習でどんなことをすればいいのか、悩むお子さんもいるかと思いますが、自分で決めて取り組んだことは自主学習になります。はじめはあまり難しく考えず、いろいろなことをやってみるといいでしょう。続けていくうちに、自分がやりたいと思う自主学習が見つかり、自主学習にスムーズに取り組めるようになることでしょう。

次に示したものは、自主学習の内容の一例です。参考の上、お子さんにアドバイスをしていただけましたらと思います。また、友達と情報交換をすることも、学習内容を決める上で役立つと思います。

～ 自主学習の例 ～

日記

自己紹介文(好きな食べ物や遊び、宝物など)

家族の紹介文(家で飼っている動物のことなど)

今日の学習でわかったこと

好きな詩や文の書き取り

季節に咲く花(図鑑で調べても可)

家の近くで見つけた植物や昆虫のこと

漢字練習

読書(読んだ本の題名 一言感想を書く)

詩や百人一首の暗唱(読んだ回数を記録しておく)

計算練習

テストや授業で間違えた問題のやり直し

なりきり作文(何かになりきって作文を書く)

勉強に関するクイズ作り

ミニ新聞づくり

気になる新聞記事について、自分の考えを書く

自分の好きなもの 将来なりたいもの など、知りたいことについて調べて書く

家のお手伝い→どんなことをしたか書く。感想も書く。

地元の史跡について調べ学習

辞書を使った言葉の意味調べ(辞書を読む)

